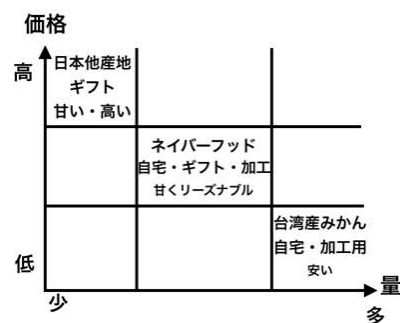


1. 輸出における現状と課題

当社では温州みかん青果を、令和2年度は30トン、令和3年度は100トン程度、台湾へ輸出を行った。これは、弊社が数年前から以来3年間に渡り、台湾輸出を目標に温州みかんの栽培と農薬使用について研究を重ね台湾基準をクリアする独自の防除暦を開発したことに由来する。

また、国内の流通形態をシンプルにし、価格を抑えて出荷する事で、結果的に台湾での店頭販売価格もリーズナブルとなっている。今までは日本から輸出の青果物は高価な贈答用という用途であったが、当社みかんはよりデイリーユーズなポジションを目指している。



輸出における課題としては、以下が挙げられる。

- 1) 輸出先着荷時のみかんのロス率低減と、流通時の梱包材の強化。
- 2) 宮崎県内を中心に産地形成を行い、パートナー農家へ台湾向け輸出防除暦共有。
- 3) 台湾以外の輸出国の販路拡大。

2. 輸出事業計画の取組内容

1) かんきつ産地形成

今後も台湾への温州みかん青果輸出を拡充すると共に、県内の温州みかん産地を取りまとめ、防除暦を共有して産地全体の輸出体制を構築する。

2) 新たな海外販路拡大

台湾以外の東南アジア諸国(香港・マカオ・マレーシア・シンガポール)についても販路拡大を図る。当社温州みかんの栄養成分をきちんと伝えとともに、輸送中のロス率低減に務め、自宅用のリーズナブルな価格帯で供給する事で、台湾以外の市場にも進出を行う。

3) 機能性表示食品の届け出・取得

当社の温州みかんはβクリプトキサンチン高含有であり、温州みかん青果・温州みかんジュース共に機能性表示食品の届け出を行う計画である。これにより、国内他産地のみかんだけでなく、海外産オレンジなどとも栄養面で差別化を行う事が出来る。

4) 施設整備

みかん輸出の最大の課題は、果実の傷みから起こる輸送中の腐敗である。そのため、可視化出来ていない微細な傷みも選別できるよう、令和3年度にAIカメラ付き光センサーなどを導入。また、令和2年度には、柑橘を長期保存できる保冷库や光殺菌機を完備した。令和5年度には現状の選果場を拡張し、保存庫などを増設した集出荷場を整備する予定である。



AIカメラ付き光センサー

様式2 輸出事業計画

※申請者名：株式会社ネイバーフッド、品目：かんきつ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

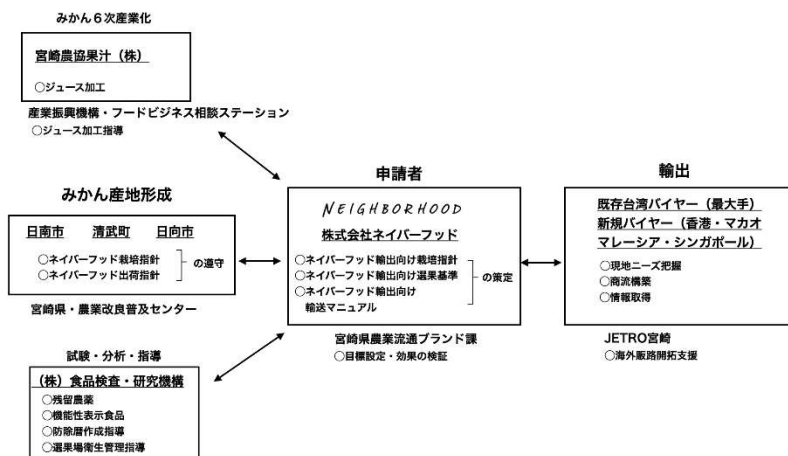
1) 温州みかん青果

台湾輸出に関しては、(株)食品検査・研究機構の指導のもと、残留農薬に留意した防除暦による栽培を遵守する。また、収穫時に全農場の残留農薬検査を実施する。

2) 温州みかんジュース

宮崎農協果汁(株)に搾汁を委託。充填に関しては現在は外注委託であるが、今後は自社の充填工場を新設する計画である。

宮崎県農業流通ブランド課、産業振興機構、ジェトロ宮崎などの支援を受けながら引き続き輸出販路拡大に努める。



4. 輸出目標額

温州みかん		現状 (令和2年度)	目標年 (令和6年度)
宮崎県	輸出額 (円)	9,000,000円	66,000,000円
	輸出量 (t)	30t	220t
	輸出先国	台湾	台湾、香港・マカオ、シンガポール、マレーシア
	取扱量 (t)	120t	1,600t
温州みかんジュース		現状 (令和2年度)	目標年 (令和6年度)
宮崎県	輸出額 (円)	0円	10,000,000円
	輸出量 (t)	0t	20t
	輸出先国		台湾、香港・マカオ、シンガポール、マレーシア
	取扱量 (t)	12t	30t